

ベトナム勉強会開催報告

平成24年10月10日(水)、JISA会議室で「ベトナム勉強会」が開催された。本勉強会は、グローバルビジネス部会 Go グローバル・ワーキンググループ(座長:伊藤整一(株)網屋社長)が主催して行ったもので、49名が参加した。ワーキンググループとしては、グローバルビジネス部会の活動の中で、国別ビジネス情報の共有に一定の関心があると判断し、まず Japan ICT Day やセミナー等で交流があるベトナムを対象としてオープン形式でセミナーを開催した。今回、想定よりも多数の参加があり、いわゆるチャイナリスクを軽減するための第一の候補として親日的なベトナムを想定しているからだと思われる。

当日は、講師として、アーツ証券(株)代表取締役社長・川崎正氏、(株)パソナテック執行役員グローバル担当・橋本弘則氏を招き、3時間にわたりベトナムの全般的投資環境とITサービスビジネスの状況について講演を実施、その後伊藤座長の司会により質疑、意見交換を行った。

川崎氏からは、ベトナムの概況(8700万人の人口、平均年齢25才、貿易収支、インフラ整備状況等)説明の後、政府の経済運営や日本からの投資状況と今後の見通しについて説明が行われた。鉄鋼業は制度上現時点ではベトナム参入が許可されていないにもかかわらず投資(工場設置)が実現していること、ダナンを起点としたアジア・スーパーハイウェイ構想の完成が見えてきたことにより、さらに投資の魅力が高まること等が説明された。

橋本氏からは、ベトナムへのオフショアの実際、ベトナムIT市場の状況について説明が行われた。あわせてオフショアについては言語能力だけでなく業務遂行能力を見極める必要があること、現地では、オンラインゲームやEコマース等のビジネスが好調であること、人材の層が薄く育成も遅れており転職も多い等、実際の体験談による説明が行われた。

質疑応答では、現地IT市場の状況について「現地パートナーと連携することが必要。ただし市場は未成熟であり日系の進出企業へERPを売り込むビジネスが多少ある程度。現地顧客相手のビジネスでは代金回収が非常に難しい」と回答があった。

また「日系ユーザーの進出に伴い、日本企業の品質基準でITシステムを導入したいとの希望がユーザーから寄せられているが、どのようなステップを踏むのが効果的か」との質問には、「現地従業員を日本のシステムに習熟させるのは容易ではなく、まずキーパーソンを日本に呼んで数年研修させ、日本のやり方をよく理解させることから始めるしか方法がないのではないか」と返答していた。

(山本)